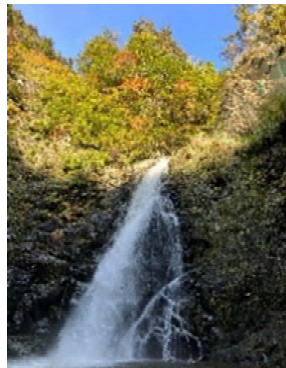


- 白神山地は、青森県と秋田県の県境にまたがる標高約200mから1,250mの山岳地帯の総称であり、人為的な影響をほとんど受けていない原生的なブナ天然林が東アジア最大の規模で分布している。
- ブナを主体とした森林には540種以上の多種多様な植物が生育し、ニホンカモシカやツキノワグマ等35種の哺乳類、イヌワシやクマゲラ等94種の鳥類、2,000種以上の昆虫類等が生息する。

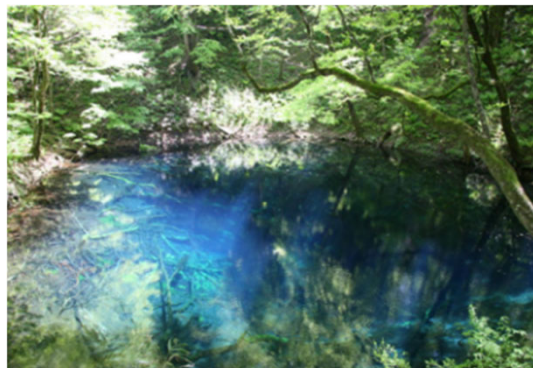
白神山地の景観



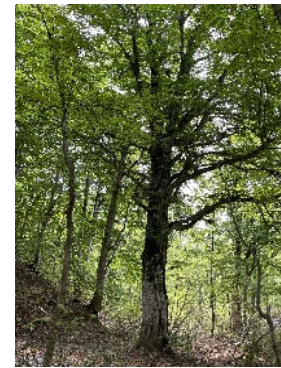
小岳から遺産地域を望む



暗門第三の滝



十二湖 青池



白神いざないツリー



岳岱大ブナ

※世界遺産区域外

白神山地に生息する野生生物

- ・ ツキノワグマ
- ・ ニホンカモシカ
- ・ ニホンザル
- ・ クマタカ
- ・ イヌワシ
- ・ クマゲラ 等



イヌワシ



ニホンカモシカ

ブナの四季変化

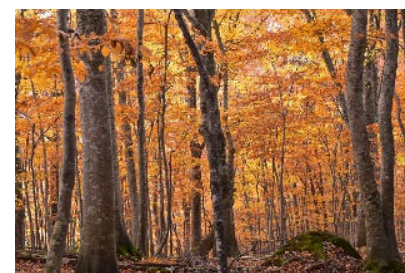
ブナ林は四季の変化とともに様々な姿を見せる。



春



夏



秋

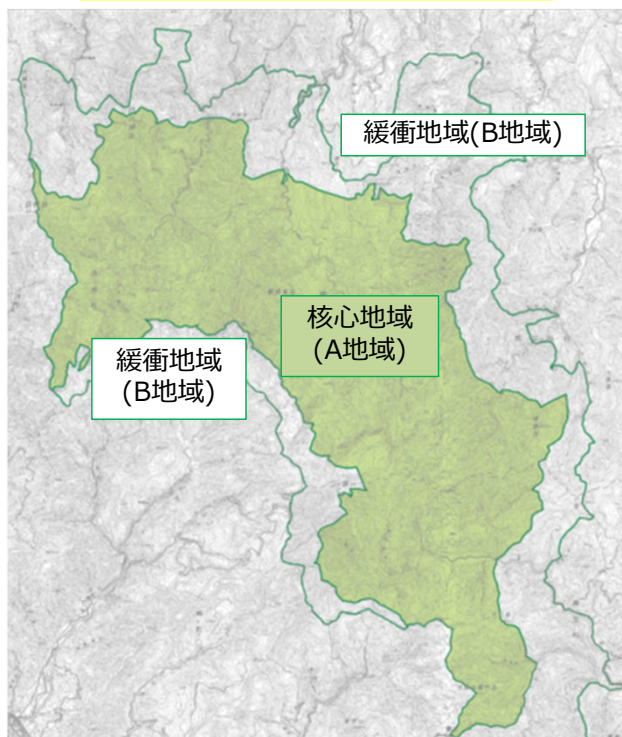


冬

「白神山地」における林野庁の取組

- 世界自然遺産登録(1993(H5)年)に先立ち、1990(H2)年に約1万7千haの国有林野(遺産地域全域)に「森林生態系保護地域」を設定。
- ブナ林生態系のモニタリング、ニホンジカによる影響の調査等により適切に保護・管理。
- 地域と連携した自然再生活動や森林環境教育、巡視活動による保護意識の普及啓発を実施。

世界自然遺産地域と国有林野

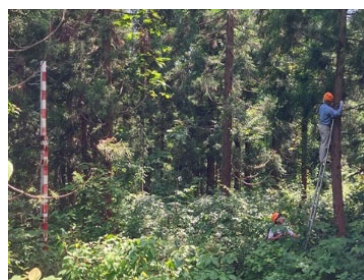


遺産地域面積：16,971ha
 ■ 核心地域(A地域)：10,139ha
 ■ 緩衝地域(B地域)：6,832ha

※核心地域(A地域)、緩衝地域(B地域)ともに遺産地域の全域が国有林野(白神山地森林生態系保護地域)

ブナ林生態系のモニタリング

- ・ 遺産地域内等に調査区を設定し、ブナ林の動態や積雪深の変化、入り込みによる植生への影響や林内気温の変化、垂直分布の植生の変化、哺乳類の生息状況等をモニタリング



積雪深の測定



垂直分布の植生調査

地域と連携した自然再生活動

- ・ ボランティア団体等と連携し、遺産地域周辺のスギ人工林において、近隣の天然林由来の苗木の植栽等による広葉樹林への再生活動を実施



活動の様子

ニホンジカによる影響の調査

- ・ 2017(H29)年に核心地域において初めてニホンジカの生息を確認
- ・ 食害による森林生態系への影響が懸念されるため、関係機関と連携し、自動撮影カメラの設置等により監視体制を強化



自動撮影カメラの設置

【ニホンジカ確認地点】
(2025(R7)年)

凡例

- オスとメスの撮影あり
- オスのみ撮影あり
- オス・メス・仔の撮影あり
- 撮影なし
- 緩衝地域
- 核心地域

